



豚熱ワクチン接種適期について

千葉県においてワクチン接種適期の検討を行った結果、
当面の間、県として以下の方針を推奨します。

- **30～40日齢接種を基本とする** ⇒裏面を参照
- **テイク率が低い(80%未満)農場は追加接種と抗体検査を実施する**
- **ワクチンで100%防御できるタイミングは無いことから、引き続き農場防疫を強化する**

農場を豚熱から守るには、衛生管理も重要です!!

★ 豚熱ウイルスは環境残存性が高いウイルスです
「農場に入れない」だけでなく「豚舎に入れない」という意識も重要!

～豚熱対策上重要な飼養衛生管理ポイント～

- 1 衛生管理区域に立ち入る際
 - 車両の消毒
 - 人の手指の消毒
 - 専用の衣服及び靴の設置並びに使用
- 2 畜舎に立ち入る際
 - 人の手指の消毒
 - 専用の衣服、靴の設置と使用
- 3 畜舎外での病原体の汚染防止
 - 柵・ネットの設置
 - 環境からの交差汚染防止
- 4 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒
 - 畜舎、柵回りの草刈り
 - 豚や人の移動通路の消毒

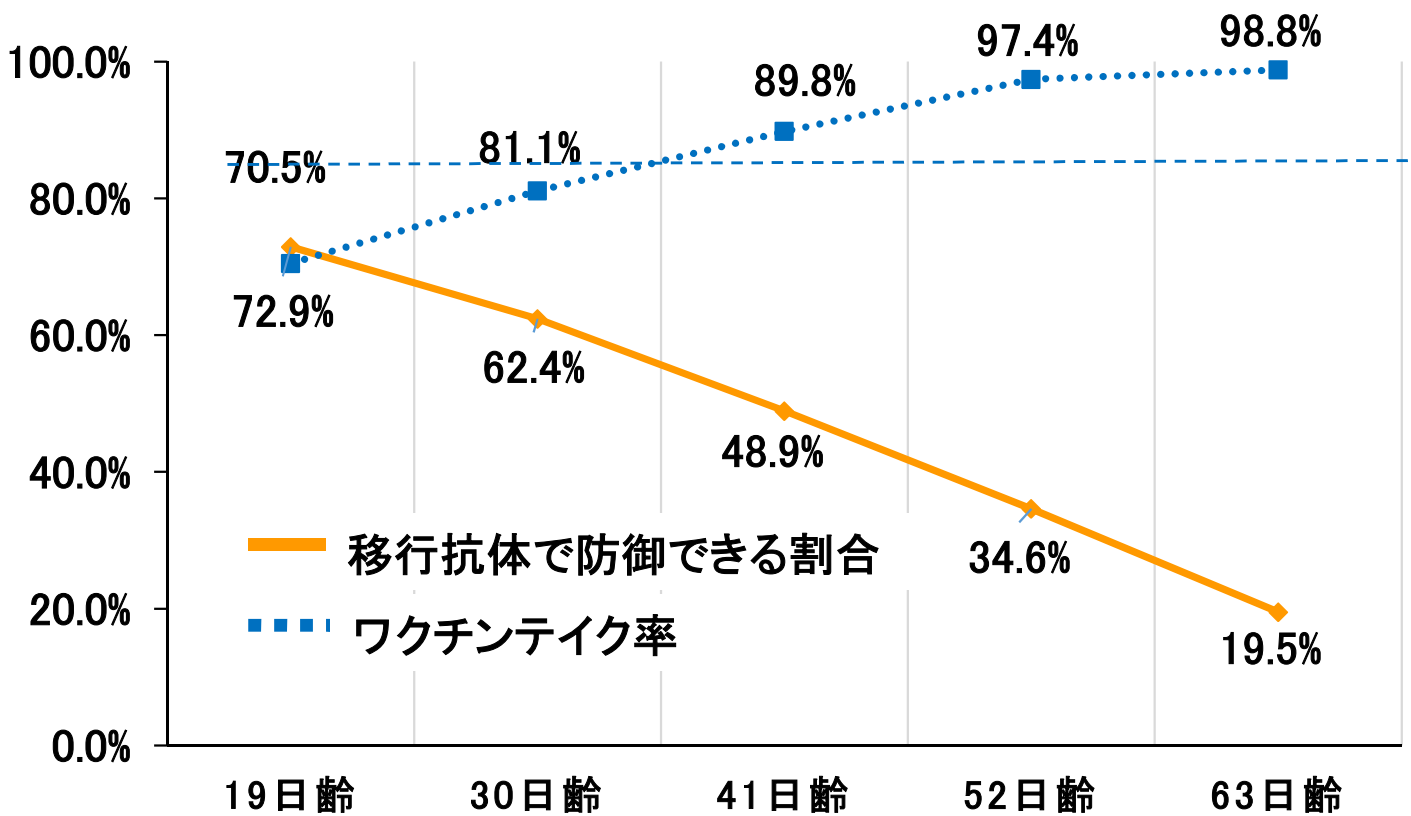
(参考) 豚熱ワクチン接種適期の検討について

千葉県では、令和3年7月～12月にかけて県内20農場を対象として、肥育豚30日齢の移行抗体価を測定し、日齢ごとに移行抗体で防御可能（移行抗体価16倍以上）な割合と、ワクチンテイク率を試算した。

【結果】

※30日齢の移行抗体価から半減期11日で算出、実測値ではない

ワクチン接種時の日齢	19日齢	30日齢	41日齢	52日齢	63日齢
移行抗体で防御できる割合	72.9%	62.4%	48.9%	34.6%	19.5%
ワクチンテイク率	70.5%	81.1%	89.8%	97.4%	98.8%



- 19日齢時接種ではテイク率が80%未満
 - 30日齢以上ではテイク率が80%以上
 - 41日齢以降は移行抗体による防御可能割合が50%以下に低下すると推測
- ⇒30～40日齢接種を推奨**
(離乳豚や接種後日数の短い肥育豚への侵入防止対策を強化)